

## 再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課  
担当課長名：高松 論

<b>事業名</b>	地高ICアクセス 市道 <small>かわそえちゆうおうかん</small> 川副中央幹線（北川副・川副工区） <small>きたかわそえ</small> <small>かわそえ</small>	<b>事業区分</b>	地方道	<b>事業主体</b>	佐賀市
<b>起終点</b>	自：佐賀県佐賀市新郷本町 <small>しんごうほんまち</small> 至：佐賀県佐賀市川副町大字福富 <small>かわそえまち</small> <small>ふくとみ</small>	<b>延長</b>	3.1 km		
<b>事業概要</b>					
<p>市道川副中央幹線は、県道佐賀外環状線と国道208号、市道環状東みなみ線に接続し、県道佐賀環状東線につながる佐賀市南東部地区と市街地を結ぶ延長約3.1kmの幹線道路である。また、川副町米納津地区には、有明海沿岸道路川副IC（仮称）の整備が計画されている。</p> <p>市道川副中央幹線 北川副・川副工区は、有明海沿岸道路川副IC（仮称）からの交通の円滑化に寄与し、有明海沿岸道路の整備と一体となり、交流圏の拡大や物流の効率化、交通渋滞の緩和、歩道整備による歩行者等の安全・安心な通行の確保に大きく寄与する道路である。</p>					
H30年度事業化		都市計画決定 無し		R2年度用地着手	
R2年度工事着手					
<b>全体事業費</b>	約46億円	<b>事業進捗率</b>	約20%	<b>供用済延長</b>	— km
<b>計画交通量</b>	3,600～8,700台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b>	<b>総費用</b>	<small>(残事業)/(事業全体)</small> 27/40億円 事業費：27/40億円 維持管理費：0.28/0.28億円	<b>総便益</b>	<small>(残事業)/(事業全体)</small> 47/47億円 走行時間短縮便益：43/43億円 走行経費減少便益：3.7/3.7億円 交通事故減少便益：0.17/0.17億円
	<small>(事業全体)</small> 1.2				
<b>感度分析の結果</b>					
<p><small>(事業全体)</small> 交通量：B/C=1.1～1.2（交通量±10%） <small>(残事業)</small> 交通量：B/C=1.7～1.8（交通量±10%）  <small>(事業全体)</small> 事業費：B/C=1.1～1.3（事業費±10%） <small>(残事業)</small> 事業費：B/C=1.6～2.0（事業費±10%）  <small>(事業全体)</small> 事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%） <small>(残事業)</small> 事業期間：B/C=1.7～1.8（事業期間±20%）</p>					
<b>事業の効果等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路を整備することで、朝夕の慢性的な渋滞が緩和される。（主要渋滞箇所 国道208号交差点（新郷本町交差点）付近）</li> <li>・道路整備により車の円滑な通行が可能となり、自転車歩行者道路を整備することで、歩行者・自転車においても安全な通行が確保出来、交通事故件数の抑制が図られる。</li> <li>・佐賀市街地及び佐賀市南東部地区から有明海沿岸道路川副IC（仮称）までのアクセスが容易となり、幹線道路としての機能向上が図られる。</li> <li>・第一次緊急輸送道路である国道208号、県道佐賀外環状線と有明海沿岸道路川副IC（仮称）からのアクセス道路となり、当該路線を整備することで緊急輸送道路の利用強化が図られる。</li> </ul>					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀市から鹿島市までの沿線市町、県議会議員、商工会等で構成される有明海沿岸道路建設促進佐賀県期成会（会長：佐賀市長）等により早期整備の要望が行われている。</li> </ul>					
<b>事業評価監視委員会の意見</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続を妥当と認める。</li> </ul>					
<b>事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の環境等に特に変化はない。</li> </ul>					
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地取得率約87%、事業進捗率約20%</li> </ul>					
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・残る用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、改良工事を推進していく。</li> </ul>					
<b>施設の構造や工法の変更等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設発生土を先行盛土や路体盛土に流用することで、残土処分費の低減を図っている。</li> </ul>					

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



凡 例	
■ ■ ■ ■ ■	地高(事業中)
■ ■ ■ ■ ■	ICアクセス(当該路線)



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。